

## ( 8 1 ) 栃木県鹿沼市の発光路鉱山跡

参考文献( 1 )を手引きに、発光路( ほっこうじ ? ) 鉱山の探査に出かけた。文献には、「発光路部落より百川谷への小道を南行すること約 1 . 5 km の所に存在する。」の文章があった。が、百川谷はどこにあるのか? 思川は発光路部落を流れている。思川と併走するように、思川の南側に永野川が流れている。文献( 1 )には大百川鉱山についての紹介部分もある。「百川」の単語が使われている。この大百川鉱山は、永野川の上流部にあることが明記されている。また、この永野川の最上流部は「百川溪谷」と呼称されていることを、現地に行ってわかった。つまり、発光路から南行すれば、永野川の最上流部に行ける道が、かつてはあったということである。その途中に、発光路鉱山があったはずである。数度の探査の結果、1 つの沢の上流で、鉱山施設の残骸、マンガン鉱、潰れた坑口跡などを確認できた。

鉱山跡への道順は次の通りである。鹿沼からならば、粕尾峠を經由して足尾に繋がっている 1 5 号線を進んでいく。発光路地区に近づいたならば、本線から左側の側道に入っていく。橋を渡った先には釣り堀がある。釣り堀を左下に見て、林道を少し先に進んでいくと、右側に分岐した林道が延びている。この林道の先に、鉱山跡がある。このあたりの林道の適当な広さの所に、車を駐車させて歩いていく。鉱山施設跡と現認できるコンプレッサー、レールなどの鉱山跡までは、徒歩で 1 0 分 ~ 1 5 分である。道順は後掲の写真も併用すれば、よくわかると思う。鉱山跡で幾つかのマンガン鉱を採集した。

探査日 2 0 1 1 年 3 月、その他

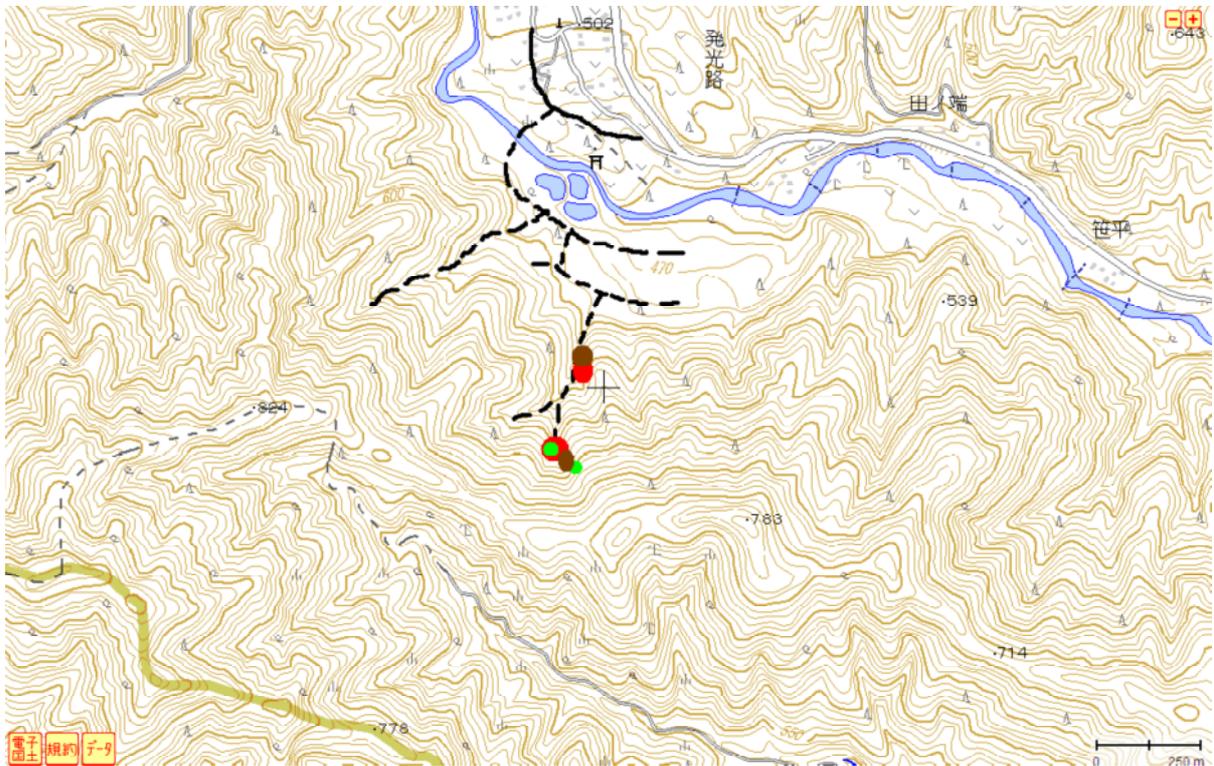


図 1 国土地理院の「地図閲覧サービス」より複写。破線は、現地探査の結果、地形図上に著者が書き入れた林道である。赤丸が施設跡、黄緑丸が坑口跡、茶色丸がズリ跡。現地には、上の図に書き入れていない林道が、蜘蛛の巣のように沢山延びていることに注意。

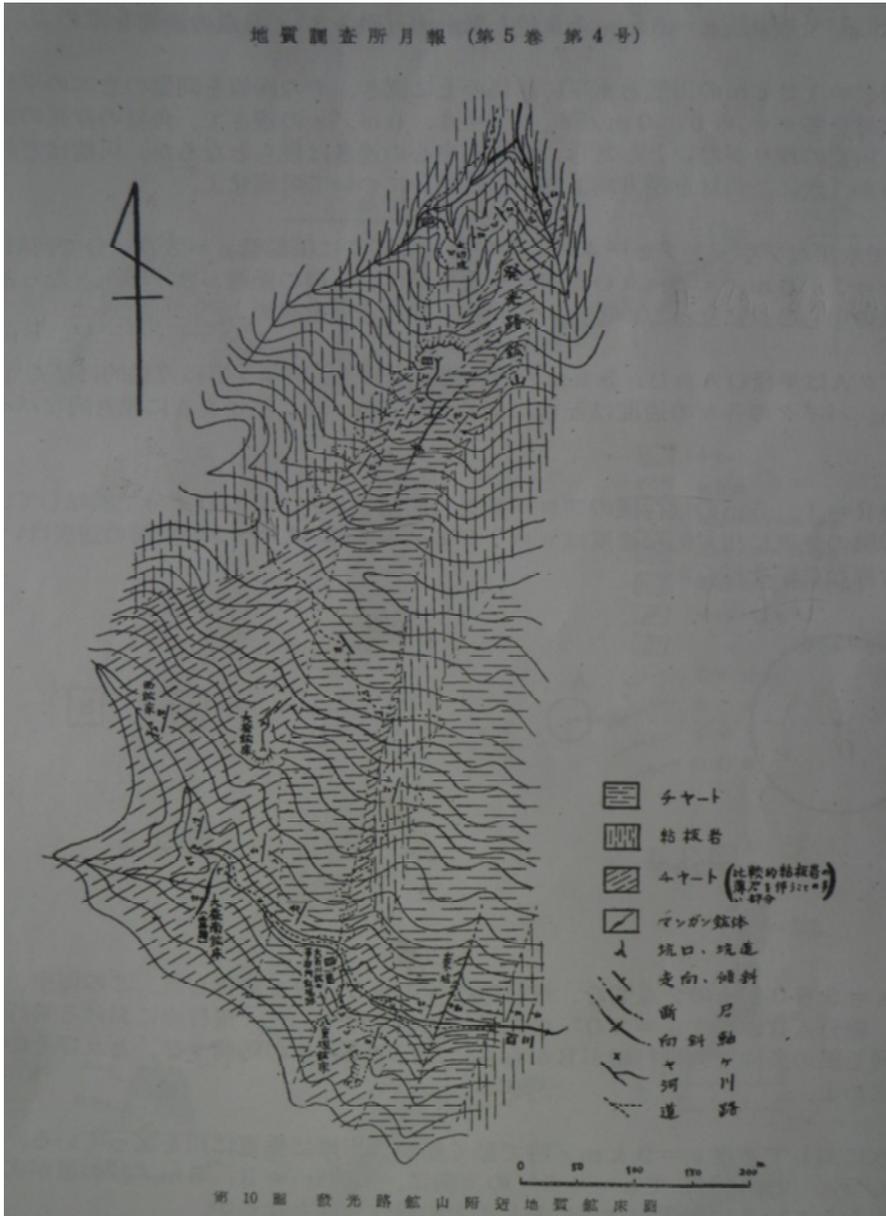


図3 参考文献(1)より複写。発光路鉱山の南方、尾根を超えた先の沢一帯に大百川鉱山があった。沢の川には「百川」書されている。永野川の最上流部の呼び名である。

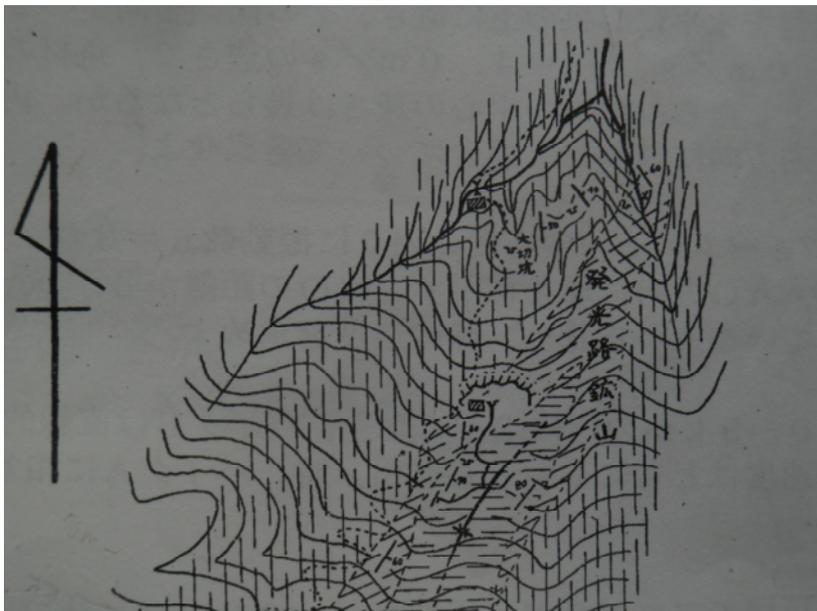


図3 図2の上部分の拡大図。「発光路鉱山」名が記されている。

## 鉾山跡写真



写真1 15号線上。道路前方左側に、発光路地区へ入る側道がある。この側道に張ってからは、釣り堀を目指して進んでいく。



写真2 釣り堀を左下に見て、林道を少し先に進んでいく。右側に側道が延びている。この先に鉾山跡がある。



写真3 林道を進んでいくと、判り難い小さい沢に出会う。沢の上流に向かって、左側に広いが消えかかっている林道が延びている。これを進んでいく。



写真4 林道の左側斜面。中央で、水平方向に細い黒い直線が見える。トロック用レールである。その下は林道までズリ。



写真5 林道の左斜面にあった朽ちた鉱山施設の残骸。コンプレッサー、発電機、ベルトコンベア、レールがあった。レールは上の写真の先まで延びている。



写真6 コンプレッサーのあった箇所から更に登っていった先に、平らな部分があった。鉱石搬送バケット、鉄ロープ、その他などがある。坑口を塞いだ様だが、少し口が開いている縦穴坑跡がある。



写真7 平坦部から更に上の方を見ている。ズリがあり、その先には、縦穴坑跡があった。



写真8 図1に、破線で記入している釣り堀の直ぐ脇にあった林道を登ってみた。直ぐに沢の向こう側に、幾つかの坑口跡を見つけた。試掘跡か？ その内の1つ。

探査した現地の現状を、図3と比較するのであるが、なかなか対応ができていない。現地には、今では林道が蜘蛛の巣のように開削されているので、それに伴い埋もれてしまった箇所も多いのである。が、この場所は、発光路鉱山跡と断定する。

## 採集鉱物写真

それ程の物ではないので未掲載。

**参考文献** (1) 地質調査所月報(第5巻、第4号)の「栃木県鹿沼地方マンガン鉱床調査報告(昭和28年2月~3月調査)」宮本弘道、高瀬博、丸山修司。